まつりごと 黒岩政通信

「黒岩たかひろ応援団」会報

連絡先

●新発田事務所
〒957-0016 新潟県新発田市豊町3-2-8
TEL. 0254-21-0700 FAX. 0254-21-0707

●村上事務所
〒958-0857 新潟県村上市飯野1-7-6
TEL. 0254-50-1755 FAX. 0254-50-1756

E-mail : kuroiwa-11@prontnet.ne.jp
ホームページ: http://www.t-kuroiwa.jp
携帯ホームページ ……▶

第10号
2013年1月31日発行

「捲土重来を期す」
―「34票」を糧(かて)として

一月一日　元旦
新発田市諏訪神社前にて初詣客に街頭演説

昨年末の総選挙では多大なる御支援を頂きながら結果を出す事ができませんでした。私の力足らずを率直に認めると共に皆様からの温かい励ましにはただただ感謝するばかりです。

選挙は民主党に対する想像を絶する猛烈な大逆風との戦いでもありました。しかし、その状況下で選挙ハガキの回収数や投票依頼電話の本数など殆どの選挙戦術において前回の追い風選挙を上回る活動ができた事は驚愕に値します。私は敗戦の弁で「選挙運動において悔いはありません」と言い切ったのも選挙スタッフ、後援会の皆様の猛烈な奮闘を知ればこそでした。

選挙翌日になってわかりましたが、あと僅か「34票」あれば比例で復活当選できたとの事。民主党候補者の内、最も僅差での落選となりました。落選とは当たり前の事ですが本当に辛くきつい事実です。東京の事務所や宿舎もたたみ、地元事務所も最小規模に縮小しました。それでも死力を振り絞り前に進む決意がもてるのは皆様からの励ましと34票の悔しさがあるからです。

確かに民主党政権は経験も浅く非力でありました。ただ、民主党が掲げた人口減少国家における持続可能な社会作りという方向性は間違っていないと信じています。また、二大政党による政権交代可能な政治土壌は我が国にとって必要であるとも信じています。私はまだ40代。必ずや捲土重来を実現し、国会という舞台に再度立つ為にこれからも地道に活動を続けて参ります。皆様からの引き続きのご支援を心からお願い申し上げます。

前衆議院議員　黒岩宇洋

数字で見る2012衆議院選挙

◆「34票差」! 惜敗率0.04%の差で比例復活当選ならず

	黒岩たかひろ	菊田まきこ	鷲尾英一郎	西村智奈美
得票数	**76,135**	66,457	69,389	78,283
得票率	**41.390%**	35.200%	38.700%	35.600%
惜敗率	**82.504%**	82.540%	85.101%	80.695%

衆議院選挙の比例区はブロックごとで選出され、北信越ブロック（新潟、長野、富山、石川、福井）から11人が当選します。選出方法は先ず北信越ブロックにおいて政党ごとの総得票数（個人名ではなくて政党名）の割合で政党別の当選人数が決まります。今選挙では自民党4人、維新の会3人、民主党2人、みんなの党1人、公明党1人でした。次に誰が当選するかは小選挙区落選者の中から「惜敗率（当選者の得票数に対し落選者の得票数の割合）」が高い順で決まります。結果的には北信越ブロック民主党枠の2人を新潟県内で競う事に（他県の候補者は大差で落選していた）。1位、鷲尾英一郎、2位、菊田まきこ、3位、黒岩たかひろとなり、2位の菊田氏と黒岩の差が惜敗率で「0.04%」、票差にして「34票」だったのです。

この結果で分かるのは民主党候補のうち全国で58番目（民主党当選者は57人）の戦いができたと言う素晴らしさと、されど後1歩当選に届かなかった非情な現実です。また、惜敗率とはあくまでも自民党候補との戦いであって、その差で敗れたのですから黒岩は当選した同僚議員を心から祝福し自分の分まで頑張って欲しいと選挙当日にエールを送りました。

◆投票結果で分かるもの

年	民主党		自民党		共産党		その他		計	
2012	黒岩たかひろ		斉藤洋明		田中真一		三村誉一			
	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率	投票数	投票率
	76,135	**41.39%**	92,280	50.16%	11,465	6.23%	4,075	2.22%	183,955	59.62%
2009	黒岩たかひろ		稲葉大和				富川まさみつ			
	得票数	得票率	得票数	得票率			得票数	得票率	投票数	投票率
	154,985	**66.03%**	77,058	32.83%			2,668	1.14%	234,711	74.08%

今回の投票結果から更に分析を進めます。前回09年選挙との大きな違いは投票率。全国的にも戦後最低の投票率を記録しましたが、新潟3区は全国平均を遥かに下回る15%ものダウンを記録しました。黒岩たかひろが前回獲得した票の内、自民党へ約1割、共産党へ約1割弱が流れましたが、3割強の約5万票はどこにも行かず宙に浮いたのです。正に自民党が勝った訳でなく民主党が負けた選挙と言われる所以です。

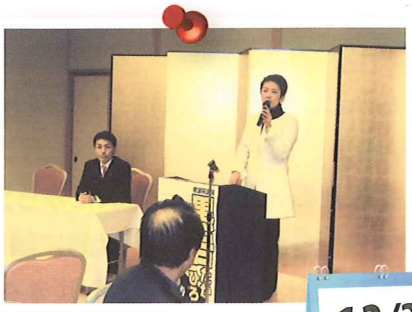
自民党の基礎票は09年選挙稲葉氏の獲得した7万7千票ですが、今回追い風にも関わらず自民党は1万5千票しか上乗せできませんでした。これ以上の伸びは今後期待し辛いと言えましょう。

翻って、今回黒岩の獲得した7万6千票。前回の自民党への逆風よりも格段凄まじい民主党への逆風、また戦後最低の投票率から考えると自民党の基礎票より圧倒的に固い根雪のような基礎票と言えます。得票率を見ても09年自民党の32%に比べ41%と遥かに高く、後5%ほど得票率を伸ばせば（そうすれば自民党は5%減少する）当選できると考えれば、次回に大きな期待が持てる結果と言えます。地道な活動を今後続ければ必ずや次回は勝ち抜けると支援者の皆さんには大きな自信をお持ち頂きたいと思います。

黒岩たかひろ 衆院選の活動記録

11/25

選対本部事務所開き
玄葉外務大臣が応援に
駆け付ける



12/2

阿賀野市国政報告会
蓮舫前大臣が応援に
駆け付ける

12/2

女性集会の一コマ、
会場は女性一色

12/4

出陣式

12/4

出陣式
村上第一声

12/4

娘の継未も頑張りました!

12/8

野田総理大臣　当初の
予定を変更して急遽3区
に応援に入る　北区早通南保育園

12/11

前原誠司国家戦略担当
大臣が応援に3区入り
新発田コモタウン

12/13

細野豪志政調会長
応援演説
胎内市　マックスバリュー

選挙事務所風景
後半戦は沢山の電話かけボランティ
アの皆様で電話は全て埋まりました。

12/15

最終日
最後の訴え

投票日
12/16

落選が決定したが、温かく
黒岩を迎えた後援会の皆
様からは拍手が鳴りやまなかった。

民主党政権を振り返る

何故民主党政権はこんなにも早く瓦解したのか。何故これ程まで強烈に国民の信頼を失ったのか。
様々な見解があることを承知しながら私としてその答えは「仲間割れ」と「官僚主導」だと考えている。
ここで民主党政権の3年3ヶ月を振り返ってみよう。
勿論私自身民主党員であるし、民主党政権の一員であった訳だから無責任な党批判を展開するのではなく、
内部からしか中々見えない政治風景を自戒を込めながら概括的に論じたいと思う。
紙幅の制限からかいつまんだトピックス形式になる事をお許し頂きたい。

政調廃止――出だしの掛け違え

平成21年9月17日、この日は16日に鳩山由紀夫民主党代表が首班指名を受け民主党政権が船出をした翌日である。そして、この日の両院議員総会にて党役員人事が発表される事になっていた。しかし、会場で発表されたのは小沢一郎幹事長のみ。政調会長や国対委員長など他の役員の発表は行われなかった。その原因は後で分かったのであるが、政策調査会そのものが廃止される事によるものだった。因みに最近党幹部に聞いた話でも、幹部ですらこの事実は16日時点で知らされていなかったのである。

政権交代前、民主党は政調会長が大臣を兼ね「政府与党の政策一元化」を図ると謳っていた。具体的には菅直人さんが国家戦略担当大臣兼政調会長に就任すると17日時点で多くの議員が思っていた。しかし、実際には政調会長ポストのみならず政調そのものが廃止されたのである。これは禍根を残した。マスコミは小沢幹事長の「菅外し」と報じたが、個人的な禍根だけではない。「政調復活」がその後「親小沢」「非小沢」政局のテーマになったのだから民主党全体に大きな陰を落としたのは事実である。そして、この日はそれまで小沢・鳩山・菅のトロイカ体制から菅さんが非小沢に舵を切りその後の「仲間割れ」に繋がる大きな局面となった。

財務省支配――数奇な玉突き人事

平成22年1月6日、藤井裕久財務大臣が突然辞任した。民主党はマニフェストでガソリン税の「暫定税率廃止」を掲げていた。しかし、前年末に小沢幹事長が官邸に出向き鳩山総理、藤井財務相ら政府に暫定税率の存続を呑ませた。この行為そのものは「政治主導」であるが、この事が藤井財務相の辞任に繋がりその後の数奇な玉突き人事で「官僚主導」に繋がったとすればこんな皮肉な話はない。

藤井大臣の辞任により国家戦略担当大臣であった菅さんが財務大臣に、菅さんの後任に仙谷由人行政刷新担当大臣が横滑り。仙谷さんの後任には非小沢の急先鋒で無役であった枝野幸男さんが就任した。その後、菅さんが総理になると財務副大臣であった野田さんが財務大臣に昇格。その後野田さんも総理となり二代続けて財務大臣経験者が総理となる引き金になったのが藤井大臣の辞任であった。国民の目からすれば菅政権以降、民主党政権の陰に財務省の存在がちらつき、「官僚主導」と映る契機となったと言える。

また、菅政権では仙谷さんが官房長官、枝野さんが幹事長となり野田財務大臣を含めこの玉突き人事に関係する人たち全てが非小沢政権の中枢を担った事も奇妙な縁である。この点において藤井大臣の辞任は結果的に親小沢VS非小沢、即ち過度な「仲間割れ」をも誘引したと言える。

上記の指摘はマスコミでは見聞することはなく私独自のものであるが、事実経過としては間違ったものではなかろう。

意地悪質問――柔和へのきっかけ

平成22年1月26日、参院予算委員会で菅財務大臣と自民党林芳正参議員の間で以下のやり取りが交わされた。林議員の質問は「『乗数効果』と『消費性向』の関係は?」。この答弁に菅財務相は窮したのである。(※答えは「乗数効果」=1÷(1−「消費性向」)、消費性向が「0.5」なら計算式に則り乗数効果は「2」となる)予算委員会は細かな経済用語を聞く場ではない。しかし、窮する姿をテレビで全国中継された菅さんとしては痛くプライドを傷付けられた事だろう。国会答弁において官僚の協力の必要性を深く認識したとしてもおかしくはない。官僚の事を「勉強はできるがバカばかり」と強く批判していた菅さんがこの頃から財務官僚に対して柔和になったと感じたのは私だけではあるまい。

その後、菅政権が誕生するが鳩山政権で廃止された「事務次官会議」が事実上復活するなど官僚の影響力は増して行く。その静かなる偶然の発射ボタンが前述の意地悪質問であったと見るのはうがち過ぎだろうか。

決定的な亀裂――溝は更に拡がった

平成22年6月2日、鳩山総理突然の辞意表明。普天間問題への対応や自らの献金問題で鳩山総理が辞意を表明した。直近の党内政局において非小沢系の玄葉光一郎財政金融委員長らが中心となって「政調復活」に向けた運動を展開していた。これらの勢力も糾合し代表選では菅さんがあっさりと勝利。2代目の民主党総理となった。玄葉さんが民主党政権初代政調会長兼国務大臣に就任。政調をめぐる政局で政権発足後表舞台に立てなかった非小沢系議員が続々とステージに上ってきた。最初の掛け違えが徐々にその溝を広げ始めたのである。

9月の代表選はとうとう菅さんと小沢さんの直接対決。政権発足後は親小沢系の勢力が圧倒的であったが、この勝負において議員票206対200で菅さんが勝利し二つの陣営の亀裂は決定的となった。

常態化していた党内の「仲間割れ」が最も深刻化且つ表面化したのが、野田政権における消費税議論である。これは民主党に対する国民からの信頼を壊滅的に消失させた。消費増税というただでさえ国民から忌避される命題であるのに、党内で意見が真っ向対立。それも政策論と言うより国民から見れば親小沢対非小沢の「仲間割れ」と映る。更に「官僚(財務省)主導」に見えるのだから国民は消費税が嫌を越え、民主党政権そのものが嫌になったのだろう。

党内の決定的亀裂はやがて分裂を引き起こす。小沢系議員が相次いで離党し新党を立ち上げたのだ。これを「良かった」と喜ぶ民主党議員も少なからず存在した。しかし、政治権力は数あってのもの。損得も含め権力を維持する為には懐深い求心力が必要なのである。分裂は絶対に避けるべきであったと私は信じている。

良くも悪くも民主党――苦さを知った政党だから

何故ここまで党内で「仲間割れ=本気のケンカ」をするのか。その答えは「政権への執着心の無さ」である。そしてその原因は身内びいきで言えば民主党議員が利権に絡まず、与党のうま味に浴さないからではないだろうか。与党であれば官僚に口利きし業界から献金やパーティー券の協力をもらおう、と考える議員は民主党は自民党に比べ圧倒的に少ない。極論すれば民主党議員にとって与党も野党もうま味において変わりはない。しかし、政策を実現する為には与党即ち政権に対し火の玉の様な執着心を持たなければならない当然の事実を民主党自身が今選挙を通じて身に染みて実感したはずである。

「官僚主導」に関して言えば、実際の内情は測りかねる。私が法務大臣政務官時代、政務三役は相当以上官僚組織にモノ申してきた自負はある。しかし、国民に官僚主導と映った事は紛れもない事実。天下りの全面禁止、国家戦略局の設置、人事権の掌握など強烈な手立てを政権交代直後熱いうちに打っておくべきだった。大きな反省である。ただ、初の政権交代の中でこの大きな過ちと苦い反省を体現した政党は民主党だけである。必ずやこの経験を活かし二大勢力の一翼を担う強い政党に生まれ変わらなければならない。

座談会の開催

ミニ集会を開催しませんか？お呼び頂ければ、いつでも、どこへでも黒岩が伺って政治について語ります。質問もドンドン受け付けます。少人数でも大歓迎。お気軽に黒岩事務所までご連絡ください。

後援会報の配布

黒岩の活動報告（後援会報）を配布頂ける方を募っております。基本的に投げ入れの形で行っています。5軒でも10軒でもご近所に配っていただける方、黒岩事務所までご一報をお願い致します！

FAX通信

毎週月曜日に黒岩自身が毎日更新しているブログから選りすぐって2日分ダイジェストでFAX通信としてお送りしています。自宅でインターネットの環境がない方、ドンドン黒岩事務所までお申し込み下さい！

申し込みFAX番号 0254-21-0707

黒岩たかひろ プロフィール

- 1966年10月13日生まれ、46歳
  新発田市在住　家族：妻、長女
- 1985年、新潟県立六日町高校卒業、
  同1985年、東京大学入学
- 1991年、東京大学法学部中退
- ㈶住宅産業研修財団、㈱黒岩地域福祉研究所代表、
  参議院議員公設秘書
- 2002年、参議院新潟補選で初当選
- 2006年、参院沖縄・北方問題特別委員長
- 2007年、参院選で34万票獲得するも、1万票差で惜敗
- 2007年、次期衆院選・新潟3区民主党公認内定
- 2009年、衆議院議員選挙で当選
- 2010年9月、衆院1期生で法務大臣政務官に就任

座右の銘「全て潔（いさぎよ）し」
［特技］スキー　［趣味］料理

「黒岩たかひろ応援団」に是非ご入会を！

「黒岩たかひろ応援団」は黒岩たかひろの更なる飛躍を期し、会員一人ひとりがその政治活動をサポートすることを目的として設立された会員組織です。皆様から頂いた会費は、会報の発行を含む政治活動に活用させて頂いております。

また、応援団ご入会の方には優先的に地域で行われる集会、座談会のご案内をさせて頂いております。今後、より充実した活動を行うためにも多くの方のご入会をお待ちしております。

【年 会 費】　年額 1口 5,000円より
【お振込先】　郵便局：口座番号　00580-5-74715
　　口座名義　「黒岩たかひろ応援団」
　　銀　行：第四銀行　新発田支店
　　口座番号　（普）2150812
　　口座名義　「黒岩たかひろ応援団」

カンパにご協力を！

応援団会費年額5,000円以外にも、随時カンパを受け付けております。ご協力頂ける方は、下記までお振込み下さい。

【お振込先】
郵便局：口座番号 00550-4-74787　「黒岩宇洋と歩む会」
銀　行：第四銀行/南新潟支店（普）1769845「黒岩たかひろと歩む会」